



キャンパス・コンソーシアム函館

合同公開講座

函館学 2023

第2回講義

講義資料

昭和18年函館市立函館幼稚園保育日誌

から読みとる戦時下の幼児教育

講師：毛利 悦子

函館大谷短期大学 教授

日時：令和5年8月19日(土)

13:30～15:00

会場：函館大谷短期大学

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



キャンパス・コンソーシアム函館

毛利 悦子（もうり えつこ）

函館大谷短期大学 教授

講師略歴

昭和41年	3月	北海道函館西高等学校	卒業
昭和43年	3月	函館保育専門学院	幼稚園教諭養成科 卒業
昭和43年	1月～昭和53年	3月	函館市立函館幼稚園 教諭
昭和53年	4月～昭和63年	3月	函館市立松風幼稚園 教頭
昭和53年	4月～平成8年	3月	函館市立函館幼稚園 教頭
平成8年	4月～平成14年	3月	函館市立日吉幼稚園 園長
平成14年	4月～平成15年	3月	函館市立函館幼稚園 園長
平成15年	4月～平成20年	3月	函館市立はこだて幼稚園 園長
平成20年	4月～平成25年	3月	函館大谷短期大学 こども学科 准教授
平成25年	4月～	函館大谷短期大学	こども学科 教授

(受賞歴)

平成13年度	渡島管内教育実践者表彰	受賞
平成14年度	北海道教育実践者表彰	受賞

発表内容 要旨

テーマ 昭和18年函館市立函館幼稚園保育日誌から 読みとる戦時下の幼児教育

手元に昭和18年度函館市立函館幼稚園の保育日誌があります。昭和17年度まで愛国婦人会函館支部が経営していた私立函館幼稚園が、経営を函館市に移管して北海道初の公立幼稚園発足した年度のものであります。2年保育年長組菊組は、入園が私立函館幼稚園で修了(卒園)が市立函館幼稚園になります。他に一年保育年長組櫻組日誌が残っています。残念ながら愛国幼稚園時の日誌はありませんし、昭和19年度～21年度までは不明です。

年間教育日数は261日、園児数は両クラス共に45名。保育項目(※現在の領域、小学校以上では教科)は談話、手技・手工、運動・遊戯、唱歌、観察です。他に儀式、行事等があります。慰問週間では慰問文を書き、慰問袋をつくる、防空壕退避訓練等の記載もあり、ほぼ毎日の生活において戦時色の濃い教育内容になっています。

例えば菊組の日誌より

四月二日金曜日 晴

- 入園式 次第
- 一、修礼
 - 一、擧式の辞
 - 一、神様礼拝
 - 一、国民儀礼
 - 一、賞證及び賞品授與 ※菊組のみ前年度の皆勤賞
 - 一、日向園長先生のお話と先生達の照會
 - 一、保育室にて
 - 園児とのお約束 1 菊組年長組になる。すべてのお手本になること。
 - 2 朝、おくれずに登園すること
 - 3 休まないこと

四月五日月曜日 晴

警戒警報発令ニ付キ臨時休園

四月七日水曜日 晴 風強し 気温 4、5度

- 第一時限 談話 紙芝居「愛馬の出征」
第二時限 唱歌 新授 「僕等も進軍」
その他 朝の集まりの時 「愛馬の日お話」をうかがいました。

このような教育活動は、昭和16年12月23日、皇太子(当時)に設立された「日本小國民文化協会」の意に沿ったものと考えられます。

「日本小國民文化協会」設立の概要

昭和12年の日中戦争勃発後、昭和13年、国民と物資の総動員を目指した「国家総動員法」が公布され、「日本学芸新聞」に内務省警察局図書課長の談話が掲

載され、児童読み物にも言論統制が及んできたことを受け、昭和13年10月「児童読み物改善ニ関スル指示要綱」が通達されたことから端を発し、昭和15年9月「児童文化新体制懇談会」同12月「日本児童文化協会(仮称)設立準備懇談会」が開催されていきます。

昭和16年「日本児童文化協会要綱」の最終的な決定され、8月「日本児童文化設立連絡会」が開催され、事実上協会が誕生します。その後「日本小国民文化協会」に名称変更がなされました。

山本有三以下17名の実行委員、北原白秋以下80名の分課委員が委嘱されます。文学、絵画、童話、遊具、紙芝居、舞踊、音楽、出版、演劇、蓄音機レコードの12部会から構成されています。

昭和16年12月23日、「日本小国民文化」設立総会開催。

昭和17年10月～ 機関誌「小国民文化」発行
文部省推薦図書として編集に関わった出版物発行
イベントの開催

昨年、ウクライナ戦争が始まり、ロシアに占領された地区の小学校で、子どもたちがロシア語での教育を受けることになり戸惑う様子が報道されたのを契機に、この2冊の日誌を読み返してみました。改めて政局の流れに沿った教育活動を進めることに恐怖を覚えました。

しかし、先生方はこのような中でも、園児達の安全な生活を守り、園児の喜びをともに喜び、園児の素直に表現する感性に共感する様子が垣間見られます。この後函館市内は直接戦火に見舞われ、休園していきませんが、どのような状況でも真摯に、日々教育活動に取り組んだ先生方の実践を紹介します。